

地域に眠っている保健人材を発掘し、地域住民の健康を支える



【活動概要・他でもありそうな課題】

《活動》

看護師や介護士がボランティアで「まちの保健室」の運営

- 血圧測定、健康相談、介護予防のアドバイス、心配ごとの相談
- 必要なときに、必要なところ(病院、市役所、その他)に繋ぐ

《課題》

- ・飛騨地域の高齢化に伴う孤独、病院は忙しそうで相談できない
- ・核家族化によって育児を頼れる人がいない
⇒居場所づくり、健康について気軽に相談できる場所を目指す



【マネできそうな手順や実例】

地域にいる潜在的な資格保有者を仲間にする！

《手順》

①団体の立ち上げ

»自分の持っている資格やスキルを活かしたいという仲間と共に、まずは始めてみる！

②仲間を集める

»インスタグラムやフェイスブックなどのSNSで仲間を集める！ハッシュタグを忘れずに！

③イベント、交流会の開催

»血圧測定や健康相談、それぞれの資格や専門を活かしたワークショップの開催

《実例》「まちの保健室」の開催

»血圧測定や健康相談をしながらおしゃべりすることで、地域の人の交流の場になっている。さまざまな不安や悩みを看護師に気軽に相談できる。まさに「保健室」のような場所づくり。



《実例》ワークショップの開催

»それぞれの資格を活かしたワークショップや体験会を行うことで、地域の健康意識の向上や健康増進を図る。実施者にとっては地域での活躍の場となっている。



【獲得できた効果】

《実施者から見た効果》

- ・今まで使えていなかった資格を活かすことができる。
- ・資格やスキルなどを新たな形で活用することができる。
- ・それぞれのライフスタイルに合わせながら、地域で活躍するきっかけとなる。
- ・活躍の場を提供することで、それぞれの強みを活かした地域づくり・生きがいづくりを行うことができる。

《住民・市民から見た効果》

- ・病院に行かずとも悩みを相談することができる。
- ・悩みの種類や深刻さにかかわらず話を聞いてもらえる。
- ・血圧測定などの健康習慣が身につく。
- ・高齢者が自宅から出るきっかけとなり、ひきこもりを防ぐことができる。
- ・人との交流が生まれ、孤独感の解消になる。